

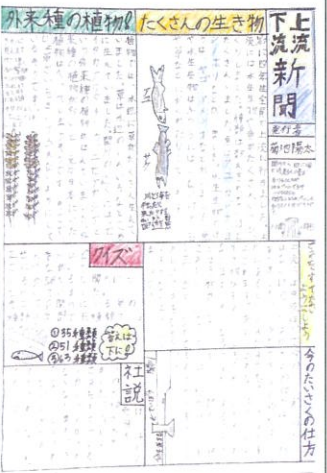


① 事業実施報告書詳細

学校名 上越市立高志小学校

時間数	場所	概要	活動記録(写真)	対象者の反応
25	正善寺川 関川	総合的な学習の時間 ・身近な川(正善寺川)を調査し、正善寺川の水のきれいさを調べようという課題を設定した。調査活動では、環境学習の講師からサポートしていただきながら、川の中での活動、川とかかわる人との交流を通して、たくさんの発見や気づきを蓄積していった。		・繰り返し川とかかわることを通して、追究方法や情報収集の質が高まり、活動が活発になった。川のきれいさを知る手がかりとなる水生生物や魚を見つけて名前を調べたり、一方でたくさんのゴミが落ちていることに疑問を感じたりした。
1	教室	国語科 ・川調査で分かったことを発信するために、新聞を作成することにした。そこで、新潟日報社から講師を招き、新聞の書き方についての学習会を行った。		・新聞では事実と意見を分けて書くことや、四角い紙面を構成するために書く順番があることなど、専門家の話に興味深く耳を傾けていた。
14	教室	総合的な学習の時間、 国語科 ・調べて分かったことや課題を学級や学年全体で情報共有した。それをもとに、「水質調査の結果」、「水生生物」、「ごみの種類」など、新聞に取り上げたい情報を選択して作成した。社説欄を設け、地域の人に向けて自分の考えも書いた。		・1枚目は中流調査、2枚目は上・下流調査について、各自が2枚の新聞を書いた。1枚目は全員が同じ書式で書いたが、2枚目はデザインや割り付けなどすべて自分で考えて作成した。一人一人の個性が表れるようになり、記事の内容にも成長が見られた。

1	教室	<p>総合的な学習の時間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習参観で、各自が書いた正善寺川新聞の発表会を行った。2枚の新聞を通して伝えたいことを友達や保護者に発表した。 		<ul style="list-style-type: none"> ・小グループで互いの新聞発表を聞き合い、質問や意見を交わした。参観した保護者からも感想をもらい、達成感を得ていた。
1	校区	<p>総合的な学習の時間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校区の町内会長さん達や、正善寺川調査でお世話になった方に新聞を読んでもらうと配布する計画を立てた。また、全員の新聞を1冊に製本し、川調査でお世話になった関係各所に配布した。 		<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方に読んでいただこうと、町内ごとに新聞をまとめて、町内会長さん達に直接渡した。地域の方からは、「がんばったね。読ませてもらうよ。」という温かい言葉をいただき、喜ぶ姿が見られた。

② 学習指導案

単元名 (全42時間)	未来へ発信！私たちの正善寺川
学習のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・正善寺川に繰り返しかかわり、正善寺川の上流、中流、下流、関川の下流の自然、景観、地域のお宝、歴史を知り、正善寺川新聞にまとめる。 ・正善寺川新聞を地域に配布することを通して、正善寺川やその流域のよさを多くの人に知ってもらおう。
学習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 正善寺川を調査して、発見したことや分かったことを蓄積する。 2 調べたことをもとに、正善寺川新聞を書く。 3 正善寺川新聞を保護者に発表したり、地域に配ったりする。
参考資料 準備品 実施場所等	<ul style="list-style-type: none"> ・新潟日報新聞 ・正善寺新聞を下書きする用紙、デジタルカメラ ・正善寺川（上流、中流、下流）、関川下流、高志小学校教室 ・正善寺ダム、正善寺浄水場、上正善寺公民館、国土交通省高田河川国道事務所

学習の流れ

時間	学習活動	教師の指導	評価
25	<ul style="list-style-type: none"> ○正善寺川を探検し、課題を設定する。 ○調査活動では、川の中での活動、川とかかわる人との交流を通して、たくさんの情報を収集する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタルカメラや記録用紙を準備し、情報を蓄積させる。 ・川の専門家に協力をあおぎ、取材や調査活動に協力していただく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題設定能力 ・課題解決能力 (活動の様子、シート)
1	<ul style="list-style-type: none"> ○新潟日報社から講師を招き、新聞の書き方について学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・効果的な資料提示や板書計画について、事前に講師との打ち合わせを行う。 ・担任はサブティーチャーとして、板書や指名を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・聞く力 (活動の様子、ワークシート)
14	<ul style="list-style-type: none"> ○調べて分かったことや課題、正善寺川の未来についての考えなどを学年全体や各学級で共有する。それを基に、一人一人が新聞に表したいことを決める。 ○正善寺川新聞を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話合いで身に付けたい力を児童に示し、質の高い活動になるようにする。 ・集めた情報を整理させ、事実と意見を分けて書くようにする。 ・割り付けや見出しを工夫したり、表やイラストを効果的に入れたりして書くようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表現力 (新聞原稿作成)
1	<ul style="list-style-type: none"> ○正善寺川新聞発表会で、自分の新聞の見所や新聞を通して伝えたいことを発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が書いた2枚の新聞を読み直し、事前に発表原稿の作成や発表練習などをして、よい発表会になるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表現力、コミュニケーション能力 (原稿、発表)
1	<ul style="list-style-type: none"> ○正善寺川探検でお世話になった方に新聞を配布する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞を渡すときに、新聞の説明や自分たちの思いも伝えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション能力 (発表)

③ 実施内容について

<p>(1) 実施にあたり工夫した点</p> <ul style="list-style-type: none">・対象となる正善寺川に繰り返しかわることを通して、児童の気付きを量から質へと転換させることができた。・学校近くの中流だけでなく、上流や下流調査も行った。地域の町内会長や専門家に事前学習会と現地での説明を依頼した。質の高い学びが実現できた。・課題追究活動では、活動後に必ず振り返りの場を設定し、得た情報や気付きを学級や学年全体で共有するようにした。また、話し合ったことは模造紙にまとめ、写真と共に掲示することでその後に新聞作成に活用できた。・成果物としての正善寺川新聞を、お世話になった地域の方を訪問し、直接手渡すことで、達成感を味わわせることができた。
<p>(2) 実施にあたり苦労した点</p> <ul style="list-style-type: none">・正善寺川新聞作りでは、一人一人が自分の新聞を書いた。下書きから清書までにかかなりの時間と個別の指導が必要になった。
<p>(3) 児童の反応</p> <ul style="list-style-type: none">・正善寺川の調査活動では、水質調査や生き物調査、インタビューなど、自分が特に関心があることに取り組んだが、その後に情報共有を行ったので、全員が同じ情報を正しく共有できたり得られる情報が増えたりした。・新聞作りでは、苦労しながらも取り組む姿が見られた。割り付けや見出しの工夫、イラストやクイズ、4コマ漫画など友達のよいアイデアを取り入れながら書く様子が見られた。
<p>(4) 担当教諭及び担当外教諭の変化</p> <ul style="list-style-type: none">・今まで知らなかった正善寺川の様子や歴史、川にかかわる人の思いなどを児童と一緒に学ぶことができた。児童がどのような体験を通して、何に気付き、どんな疑問をもつかを予想しながら活動を計画した。児童の探究心や気付きの鋭さに驚かされることもあった。教師自身も多くのことを学ぶことができた。・教員自身も、活動を通して地域を知り、また地域とつながることができた。調査対象としての川だけでなく、そこで暮らしたり川にかかわって働いたりしている人との交流が大切なことを実感した。
<p>(5) 今後の課題と取組 [児童の思考過程と指導内容との関連付けから、留意すべき事項等]</p> <ul style="list-style-type: none">・全員で「正善寺川の水のきれいさを調べよう」という課題を設定して取り組んだため、教師主導になる部分が多くあった。個人の興味・関心を尊重し、それに基づいた課題設定と追究活動を支援していくというアプローチも考えられる。限られた授業時数の中で、児童の実態や思いに合わせ、どのような学習活動を構想していけるかさらなる検討が必要だと考える。